

平成27年度JK A杯等について

【H26. 8. 23 ブロック長会議資料（抜粋）】

公益社団法人 日本けん玉協会
競技会推進委員会

競技会の見直しの考え方

現状・問題点

J K A 杯

- 参加選手の減少、運営の負担軽減、小学生の得点制競技会（実力勝負）への参加機会付与の観点から、小学生へ参加資格を付与
- 高得点者の続出、予選ボーダーの高得点化

全日本選手権

- 成功率の上昇→技の陳腐化
- T T 偏重

文科杯少年少女

- 成功率の上昇→技の陳腐化
- 地域格差の継続

技の多種・多様化、高度化

- 海外の影響・対応
- 空中技

改善の方向性

J K A 杯

- 種目（技）、試技回数の見直し
- J K A 杯（Jr）（仮称）の新設とJ K A 杯参加資格の見直し

全日本選手権

- 種目（技）、タイム競技の見直し
- タイム競技実施条件の見直し

文科杯少年少女

- 種目（技）、タイム競技の見直し
- タイム競技実施条件の見直し

- 処置・対策
審判講習会の充実
- 今後の予定
 - ・規定改正
 - ・けん玉通信等による変更事項の徹底

※ 本資料中、「J K A 杯」、「全日本選手権」、「文科杯少年少女」等について、正式名を使用すべきですが、煩雑になるため通称を使用させていただきます。

- J K A 杯：日本けん玉協会杯（J K A 杯）争奪戦
- 全日本選手権：全日本けん玉道選手権大会
- 文科杯少年少女：全日本少年少女けん玉道選手権大会

J K A 杯

1 J K A 杯 (Jr) (仮称) を新設するとともに、J K A 杯の参加資格、実施要領等の見直しを実施した。

2 J K A 杯 (Jr) (仮称) の新設

(1) 新設の必要性等

ア 経緯上

J K A 杯は開催以来実力日本一決定戦として得点方式により実施されてきたが、小学生には得点方式による競技会がない。参加選手の減少、運営スタッフの負担軽減の観点から10数年前より、小学生に参加資格を付与してきたが、近年、参加選手及びライセンス保有者の増加等により、「J K A 杯 (Jr)」(仮称)が開催できる条件が整ったものと思料する。

イ 本競技会を新設することにより「全日本・文科杯」「もしかめ選手権」と併せ、一般と小学生ともに3大会が整備されたことになり、各大会の位置付けが定まってそれぞれの価値が増す等、相乗的な効果が期待できる。

ウ 地域の枠に囚われずに小学生日本一を決することができ、文科杯の問題点を緩和することができる。

(2) J K A 杯 (Jr) (仮称) 新設に伴う変更等

ア J K A 杯の参加資格について「小学生以上」とあるを「中学生以上」とする。

イ J K A 杯 (Jr) (仮称) 等小学生が参加する大会の選技について

当面の間、安全上・教育上の配慮から空中技（手を離れてけんと玉が糸が張った状態で回転するもの）を種目としない。

3 J K A 杯の見直し

主として、予選種目を廃止して種目数を20とするとともに、技の難易度を増した。

4 別紙第1「J K A 杯実施要領」

5 別紙第2「J K A 杯種目」

J K A 杯実施要領

区分	現 行	27年度（新JKA杯）
時期 ・ 参加 資格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月下旬 ・ 小学生以上で、初段以上を有する者 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ J K A 杯（1月下旬・東京） 中学生以上で、初段以上を有する者 ◇ J K A 杯(Jr)（仮称）（2月・大阪） 小学生で、初段以上を有する者
要領	予選（20点満点）と決勝（50点満点）の得点制	<ul style="list-style-type: none"> ・ N / C（変化なし：No Change）
予 選	第1段階 1種目1回制予選競技10種目と1種目1回制決勝競技10種目により得点上位者から決勝競技進出者15名を選出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1種目1回制20種目により得点上位者から決勝競技進出15名を選出
	第2段階 残りの全選手による敗者復活戦。1種目1回試技サドンデス制により決勝競技進出者5名（記念大会は10名）を選出	<ul style="list-style-type: none"> ・ N / C（敗者復活戦） ・ 選技はくじ引きで行う。
決 勝	決勝競技進出者20名（記念大会は25名）により実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ N / C
	1種目5回制決勝競技10種目の合計得点（50点満点）	<ul style="list-style-type: none"> 1種目3回×10種目 1種目2回×10種目（50点満点）
	競技種目を前半5種目・後半5種目とし、前後半の2回に分けて実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技種目を前半10種目（30試技）、後半10種目（20試技）とする。

J K A杯種目

現 行			27年度（新J K A杯）				J K A杯(Jr)（仮称・新設）			
予選		決勝								
①	飛行機	宇宙一周	①	すべり止め極意	⑪	ろうそく持ち～うらふりけん	①	さか落とし	⑪	つるし一回転飛行機
②	ふりけん	うらふりけん～うら地球まわし	②	宇宙一周～地球まわし	⑫	つるし一回転飛行機～はやて中皿	②	けん先おもてうらすべり※	⑫	前ふりうぐいす～けん
③	世界一周	一回転飛行機～灯立	③	うらふりけん～うら地球まわし	⑬	さるのこしかけ～けん	③	宇宙一周	⑬	つるし一回転灯台～けん
④	うぐいす	つるし一回転灯台～けん	④	さか落とし～はねけん	⑭	掛け軸返しとめけん	④	ふりけん～うら地球まわし	⑭	一回転飛行機～灯立
⑤	地球まわし	けん先おもてうらすべり	⑤	一回転飛行機～灯立	⑮	二回転灯台	⑤	つるしとめけん	⑮	ろうそく返し
⑥	ヨーロッパ一周	さか落とし～はねけん	⑥	宇宙遊泳	⑯	宇宙遊泳返し	⑥	うらふりけん	⑯	月面着陸
⑦	灯台	ろうそく持ち～とめけん	⑦	円月殺法	⑰	胡蝶の舞	⑦	はねけん	⑰	ろうそく持ち～とめけん
⑧	はねけん	前ふりうぐいす～けん	⑧	つるし一回転灯台～灯台とんぼ返り	⑱	ろうそく返し	⑧	玉つきさし	⑱	灯台とんぼ返り
⑨	さか落とし	つるし飛行機～はやて中皿	⑨	うぐいすの谷渡り	⑲	月面着陸	⑨	すべり止め極意	⑲	つるし飛行機～はやて中皿
⑩	けん先すべり	灯台とんぼ返り	⑩	天地二段	⑳	大皿～回転おとしけん	⑩	金魚すくい	⑳	二回転灯台

※「けん先おもてうらすべり」は、皿胴に玉をのせた時、1秒静止するものとする。5

全日本選手権

現行実施要領		27年度	
予選（24点満点）と決勝トーナメント（勝ち抜き戦）		N/C（変更なし。）	
予選	競技選技1種目2回制12種目により決勝出場者18名（記念大会は20名）を選出	予選	・ N/C ・ シード権の付与 ※1
	敗者復活戦（トーナメント戦）により2名選出（記念大会は実施しない。）		・ N/C
決勝	1種目3回制、3本勝負（2本先取勝ち）（※決勝戦のみ5本勝負、3本先取勝ち）	決勝	・ N/C
	規程の選技数を終了した 場合 、同点1対1等になった場合、タイム競技を行い勝者を決定する。		規程の選技数を終了 して 同点1対1等になった場合、タイム競技を行い勝者を決定する。
	固定種目10、変動種目2		・ N/C

【全日本タイム競技2015】

- ① ろうそく返し
- ② 前ふりうぐいす～回転けん
- ③ ヨーロッパ一周～地球まわし
- ④ 円月殺法
- ⑤ 宇宙遊泳
- ⑥ つるし一回転灯台～さか落とし

※1 決勝トーナメント参加者（最大30名）

- (1) 予選得点上位者 18名
- (2) 敗者復活 2名
- (3) シード権保有者
 - ① 前年優勝者（1名）
 - ② 地方大会優勝者（最大7名）
 - ③ 新人王（1名）
 - ④ RPT（1名）

全日本選手権（種目及びシード権）

現 行		27年度
①	二回転飛行機	N/C (No Change)
②	つるし一回転飛行機～はねけん	N/C
③	うぐいすの谷渡り	回転うぐいすの谷渡り
④	つるし一回転灯台～とんぼ返り	うずしお灯台～さか落とし
⑤	宇宙一周～地球まわし	一回転すくいけん
⑥	ろうそく返し	ふりけん～一回転けんフリップ地球まわし
⑦	二回転灯台	二回転灯台～一回転さか落とし
⑧	宇宙遊泳	宇宙遊泳一回転飛行機
⑨	すべり止め極意	極意わたり
⑩	円月殺法	円月殺法〈空中もちかえ〉一回転灯台
⑪	静止技系等	（一例）エベレスト、まさかり、横はねけん、大皿極意など
⑫	空中技系等	（一例）はやぶさ返し、はやて落とし、招き猫はねけん、など

◇ 付与するシード権

① 前年の全日本選手権優勝者（N/C）

② 地方大会の優勝者

ア 2以上のブロックを包含し、参加選手30名以上（うち過去3年間の全日本選手権及びJKA杯の決勝進出者3名以上、5段以上の有段者10名以上を含む。）で行われた大会のうち、各地域毎、年1つの大会を指定し、その優勝者に対してシード権を付与

イ シード権を付与する大会の決定要領

(ア) シード権付与を希望する大会があるブロック長（2以上）は、連名によりその大会の実施要綱（案で可）を12月の執行理事会までに提出する。

(イ) 執行理事会は、（競技会推進委員会を経て）12月の執行理事会において審議し、シード権付与大会を決定し、1月の活動報告会等において発表する。

③ 全日本けん玉道新人王決定戦（学連主催）の優勝者

④ あらかじめ選出された地域の選抜者（Region Promotion Ticket）

競技会推進委員会は7月の執行理事会において選出する地域を推挙し、執行理事会において審議して決定、8月のブロック長会議において発表する。